美作国創生公募提案事業　事業成果報告書

１　事 業 名：コンシーデレ（定住する）山手活性化事業
　　―　定住促進を目的とした村づくり　―

２　実施団体：コンシーデレ山手（久米郡久米南町山手）

３　協働担当課：地域政策部地域づくり推進課

４　事業概要

　地域人口の減少，急速な少子化と高齢化に伴い，地域の伝統行事が維持できなくなったり，講組等，地域の組織を改めたりすることも起きており，人と人との繋がりも希薄になってきている。

　一方で，近年，町外から山手地区での農業に従事する人は増加し，自分の農地を持ち，そこで働く人も増えている。しかし，移住・定住しようと思っても，家族で生活する住宅となる空き家等が活用されることはほとんどなく，それらの人が移住・定住することが難しい現状がある。

　そこで，新規農業従事者（移住者）と地区住民との交流，地区住民同士の交流，お試し住宅の整備等を通じて，コミュニティの活性化や新規農業従事者の山手地区への定住促進を図る。

５　実施内容

①　平成 26 年度に地域の行事として立ち上げた「山手夏祭り」や毎年 11 月から２月までの地域居酒屋「おつかれ」の取組を核とし，地域住民と移住者を交えながら，企画・準備を進めていくことで，移住・定住者を受け入れるための情報収集や体制づくりを進める。

②　組織づくりのために，まず，地域住民と移住・定住希望者の各人の得意分野やできること等を調査・集計し，「冊子」にまとめる。

③　空き家や空き農地が確保できそうな際には，上記の組織づくりの取組と並行して，地域の団体がそれぞれに何ができるかを集約し，お互いに連携して，お試し住宅の補修や修理を開始する。

④　上記の取組を本団体のホームページや本団体会員のフェイスブック等を通じて積極的に情報発信をしていくことで，外部団体や外部の人とのつながりをつくっていく。そして，その中から得た情報を本団体の取組に取り込んでいく。

〇真備の箭田まちづくり協議会と連携し，真備の子どもたちの「田舎ぐらし体験事業」

⇒８月１７日，１８日の２日間，治部邸に宿泊し，地域住民といっしょに夏祭りの準備や当日の出店での販売をした。

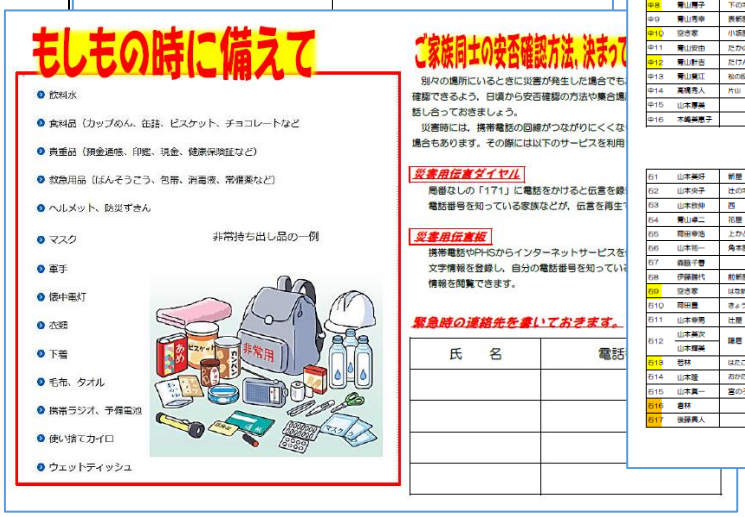
何かしてほしい時
何かしたい時
何かの時に 声をかけてください

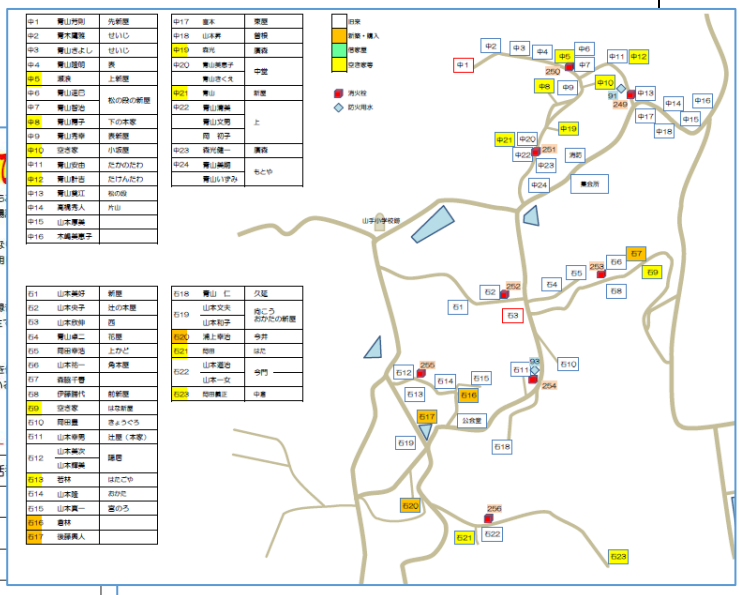
保有機器等

			123
ダンプ	5	大工道具	1
大型車両	2		
運搬機	10		
車両	4	田植え機	3
農用車両	5	コンバイン	6
バッテリーカー	1	乾燥機等	1
トラクター	17	チェンソー	1
管理機	1	草刈り機	5
耕運機	2	乗用草刈り機	3
		自走式草刈り機	1
自走式噴霧器	10		
動力噴霧器	8		
散布機	1	梱包機器	3

山手百科事典

地域のさまざまな情報を集め，１冊の本にまとめた。今後も修正を加えながら，地域の活動に活用していく予定。





６　事業実施による成果，効果，今後の課題

（１）成果，効果

○　今年度はこれまでの行事や取組をベースにしながら，山手住民を巻き込んだ組織の編成を意識しながら，移住定住を促進するためのさまざまな行事や取組を進めてきた。その中で得た情報をもとに，地区の空家の状況を把握したり，移住受入れの取組を進めたりすることができた。

　また，県内の先進地域の研修視察を行ったり，真備の箭田まちづくり協議会と連携し，真備の子どもたちの「田舎ぐらし体験事業」を実施したりすることができた。

○　組織が整理される中で，情報編集・広報班も組織され，住民会とより連携することもできるようになり，集会所にインターネット接続の機器が整備された。このことで，情報発信等もスムースに行われるようになっている。

○　地区住民の組織の編成と併行して，地域住民や移住定住希望者等の各人の保有機器・資格，得意分野等の調査・まとめをしたり，家屋の状態や空家・空地の調査も実施したりした。

　また，高齢者等「ふれあいサロン」と協力して，地域文化の継承作業として「屋号」調査を実施したり，高齢者の健康状態のチェックをしたりするといった取組も進めることができた。

○　上記の取組を「山手百科事典」として，今年度の活動のまとめとし，３月末の地区住民総会で，全戸に配布することができた。山手百科事典は，今年度の情報をたたき台として，来年度も修正や加筆を行い，さらに充実した情報冊子としてまとめるようにしていきたいと考えている。

（２）今後の課題

○　「山手百科事典」のため，地域住民や新規就農者の情報を集める中で，地区全体を巻き込んだ組織づくりを進めることができた。今後は，その冊子にある情報をもとに，空家の情報収集や査定，移住情報の収集，修理の必要な空家の修理等，組織的に動けるシステムをつくることが課題である。

　また，地区の情報を集める中で，「山手百科事典」の修正・加筆を行いながら，地域住民，特に高齢者の健康状態についての情報交換を福祉関係機関と連携し進めていきたい。

　さらに，集めた情報の中で，移住・定住につながるものについては，積極的にインターネットや個人のＳＮＳを通じて町外へ発信していきたいと考える。

7　県民局と協働した効果及び課題

○　何かの取組をしたいと考えた時，県民局の方に「移住・定住促進の視点」からの助言をいただくことで，取組の具体が見えてくることが多かった。

「田舎ぐらし体験」の取組も，本団体の願いに県民局の助言により実現することができたことは，本当にありがたかった。さらに，この取組から，真備の「箭田町づくり協議会」とのつながりができたことで，今後も移住・定住に関わるお互いにできることの情報交換をしたり，交流を進めたりすることができると考える。

○　期限付きの補助金というかたちの支援は，資金面での安心感と１年で取組を具体的に進めるエネルギー源になったと考える。

資金面での支援については，先進地域への視察も多くでき，情報を収集することができたり，山手地域のイベント（山手夏祭り等）開催や他地域のイベントへ参加することができたりした。このことは，地域内（地域住民どうしのつながり，地域住民と移住希望者，新規就農者等とのつながり，既に移住してきている人と地域住民とのつながり）を深めることができたり，県内の他地域とのつながりも多くできたりした。

また，年度当初に計画していたことを，より具体化し，実際に動けるようにまでするための１年という期間は，情報をどのように収集するか，情報をどう整理するか，冊子（山手百科事典）にどうまとめるかといったように，本団体のメンバーが常に今年度の取組に対する意識を継続していくことにつながった。

今後は，その意識を継続させながら，組織的に住民全体を巻き込んだ取組や他地域・関係機関と連携した取組をさらに重ねていきたい。